【放課後等デイサービス】　　（別添資料１）

事業所名　てあてるの芽豊橋公園前　　**支援プログラム（参考様式）**　　作成日　R7 年 2 月 1 日

法人（事業所）理念		楽しく生きる力を育み、自立への道をともに歩む
支援方針		私たちは、障がいの有無に関わらず、すべての子どもたちが 「知る喜び」「育つ楽しさ」「食べる楽しさ」 を感じながら、感覚と感性を磨ける環境を大切にします。 一人ひとりの個性を尊重し、安心して自分らしく過ごせる場を提供するとともに、自立した生活や多様な働く場の選択肢を広げる支援を行います。 子どもたちが 「できる」「挑戦する」「つながる」 体験を重ねることで、社会の中で自信を持ち、互いに支え合いながら成長できる未来をともに創ります。
営業時間		9 時 0 分から 18 時 0 分まで　送迎実施の有無　(あり)　なし
		支　援　内　容
本人支援	健康・生活	◆自立した生活を送るための基本的な生活習慣を確立する ・衛生管理の習慣化（手洗い、うがい、マスクの着用、歯磨き） ・健康的な生活リズムの確率（睡眠、食事、運動のバランス） ・食育プログラム（栄養バランスを考えた食事、お箸の使い方、簡単な調理体験） ・リラックス方法を学ぶ（呼吸法、ストレッチ、好きなことを見つける）
	運動・感覚	◆運動習慣を身につけ、心身の健康を促進する ・スポーツ、ゲーム活動（ドッジボール、鬼ごっこ、サーキットトレーニング） ・微細運動の強化（ハサミ、折り紙、裁縫、手先を使う工作） ・感覚統合活動（ボール運動、トランポリン、砂遊び、水遊び） ・体幹トレーニング（ヨガ、ストレッチ、バランスボール）
	認知・行動	◆学習能力を高め、注意力や自己管理スキルを向上させる ・学習の宿題サポート（計算、漢字、作文） ・知育ゲーム（パズル,倫理的思考トレーニング） ・ルールを守るゲーム（ボードゲーム,カードゲーム） ・自己管理の練習（スケジュール管理、時間の使い方を学ぶ）
	言語 コミュニケーション	◆言葉を使って適切に意思を伝える力を育てる ・SST（ソーシャルスキルトレーニング）（挨拶、お願い、謝る練習） ・感情表現の練習（絵カードを使った気持ちの伝え方） ・ディスカッション、発表の練習（自分の意見を話す、聞く力を伸ばす） ・文章を書く練習（日記,作文、感想を書く）
	人間関係 社会性	◆集団生活の中で、協調性やコミュニケーション力を高める ・集団ゲームやレクリエーション（協力して課題を達成する活動） ・買い物体験、外出学習（金銭管理公共マナー） ・トラブル対応の練習（ケンカの仲直り、困った時の相談） ・職業体験、社会見学（将来の自立に向けた体験活動）
家族支援		◆家庭と連携し、子どもの成長を支えるためのサポートを提供する ・学校と連携を強化（学校の担任・支援員と情報共有、学習や生活面のサポート） ・進路相談・将来設計（特別支援学校・支援級への進学、将来の自立に向けた支援） ・家庭での役割分担のサポート（家事のお手伝いや時間管理の練習） ・家族からの悩みや相談に対しての助言 ・家族の休息、リフレッシュ
移行支援		◆子どもたちが成長に応じてスムーズに次のステージへ移行できるようサポートする ・中学校・高校進学準備（学習支援・生活スキルの向上） ・職場体験・職業訓練の機会提供（作業体験・企業見学） ・社会生活スキルの向上（お金の管理・公共交通機関の利用・お買い物体験） ・就労移行支援・特別支援学校・高等教育機関との連携
地域支援・地域連携		◆地域の資源を活用し、子どもたちの社会参加を促進する ・ボランティア活動の参加（地域イベントの手伝い） ・地域の企業や団体と協力した職場見学・職業体験 ・公共施設の利用体験（図書館・博物館・市役所・消防署の見学） ・地域での実習や実践型プログラム（カフェ運営体験・農作業体験） ・関係する通所支援事業所、相談支援事業所に様子を報告するなど情報を共有し密な連携を図る ・通所支援連絡会への参加
職員の質の向上		◆職員のスキルを向上させ、より質の高い支援を提供する。 ・定期的な研修の実施 （発達障がい・自閉症・ADHDなどの理解、感覚統合療法、SSTの活用） （虐待防止・身体拘束・人権・コンプライアンス・感染症予防、ハラスメント等） ・他施設・他機関との情報共有（成功事例・支援方法の共有） ・ケースカンファレンスの実施（子ども一人ひとりに合った支援計画の策定） ・職場内研修の強化（新入社員の育成、実施を通じた指導） ・資格取得の促進（児童発達管理責任者、保育士、言語聴覚士、作業療法士などの資格取得支援） ・メンタルヘルスケアの充実（職員負担軽減、相談体制の設備）
主な行事等		◆季節ごとのイベントや行事を計画し、子どもたちが楽しみながら成長できる機会を提供します。 児童発達支援と放課後等デイサービスでの内容を調整し、発達段階に応じた体験を重視します。